

3-4 地域の現状及び地域公共交通の現状から見える課題整理

(1)円滑に町内を移動できる公共交通サービスの維持

白糠町地域公共交通網形成計画に「白糠及び庶路・西庶路市街地におけるコミュニティバスの導入」及び「町内山間部における交通空白地域の解消や利用実態を考慮した効率的で利便性の高い予約運行型公共交通への転換」を施策として定め、実行してきました。

コミュニティバスは白糠及び庶路・西庶路市街地の地域間を結ぶ移動手段としての役割、予約制バスは山間部と市街地を結ぶ移動手段としての役割を主に担っており、居住地によらず町内の生活関連施設まで移動するための重要な交通となっており、当町で住み続けるためには重要な要素となっています。

さらに施策の取り組み以降、公共交通空白地帯の解消を進めることができ、町民の利用も一定数を確保していること、利用者ニーズ調査の結果から利用頻度や継続利用意向も高い傾向にあるため、町内を移動できる公共交通サービスの維持に取り組む必要があります。

(2)広域的な生活交通を機能的に支援する公共交通の維持

白糠町の広域的な生活交通を支援する公共交通は鉄道、都市間高速バス、路線バスがあります。それらの公共交通は、白糠町が属する釧路管内において、通勤・通学、買い物、通院等のあらゆる目的において、管内の中核都市である釧路市へ移動するための重要な交通となっています。一方で、現行の路線自体を維持していくことは、交通事業者も厳しい局面となっているため、運行内容については、柔軟な考えを持ち、広域的な生活交通が断絶されないよう、沿線自治体や関係者等と協力・連携して交通ネットワークの維持に取り組む必要があります。

さらに、町内公共交通と広域公共交通との接続性を確保することも公共交通の利便性向上のためには、重要な要素となっています。

現在整備計画中のバスターミナルは、住民の重要な交通拠点として、大きな役割を果たすことを期待されています。町民が公共交通で移動する際の交通結節点として、町民ニーズの反映（待合所の設置等）や利便性向上を図った取組（バスロケーションシステムの導入等）により、機能的なバスターミナルへと改善していくことが求められています。

(3)ターゲットを明確にしたサービス提供の維持

主な移動手段が自動車であることや公共交通利用者のニーズの多様化が進み、公共交通の利用者の大幅な改善は難しい状況です。さらに全国的に運転手不足が顕在化しており、当町でも公共交通を担う事業者の運転手の高齢化や人員不足は深刻化しています。

このことから、町民の移動ニーズをすべて満たすことは、非常に難しい状況となっているため、公共交通による移動が必要な世代や世帯、いわゆる通学世代や自動車を持たない高齢者世帯などを主なターゲットと定め、公共交通サービスの提供を維持していくことが必要です。

また、移動支援を必要としている町民の数や地域は絶えず変化していくことも想定されるため、計画を推進していく中で、町民の移動ニーズに沿った公共交通サービスの提供が重要です。